

景気景況調査報告

(第16回)

令和元年	10～12月期	実績
令和2年	1～3月期	見通し

令和2年2月

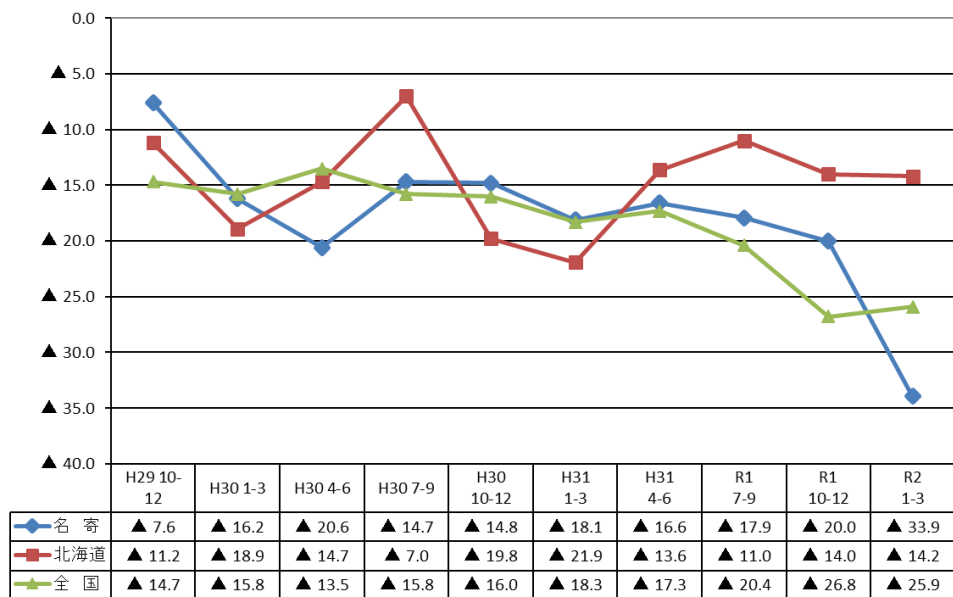
名寄商工会議所

I 調査要領

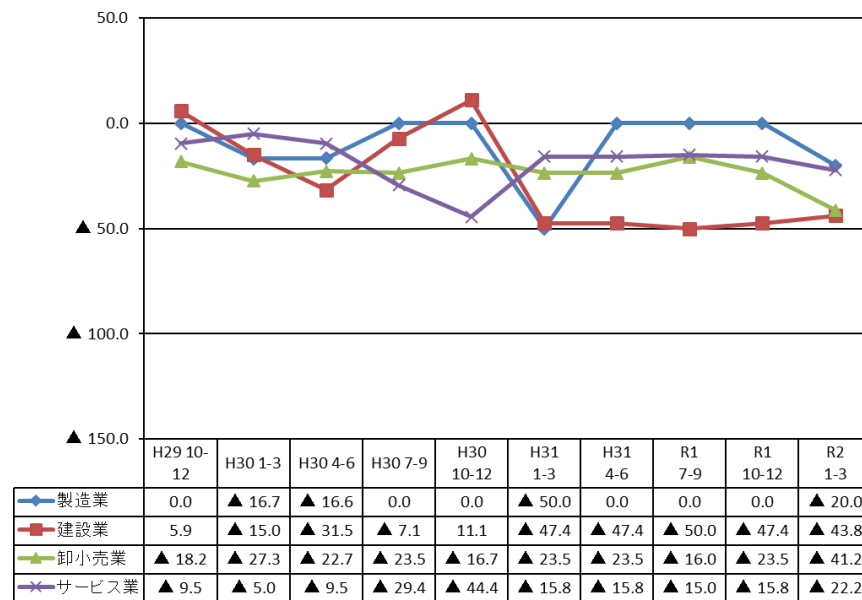
- ①調査対象期間 令和元年10～12月期の実績及び令和2年1～3月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願ひ） 60社

II 調査結果

全業種平均業況DI



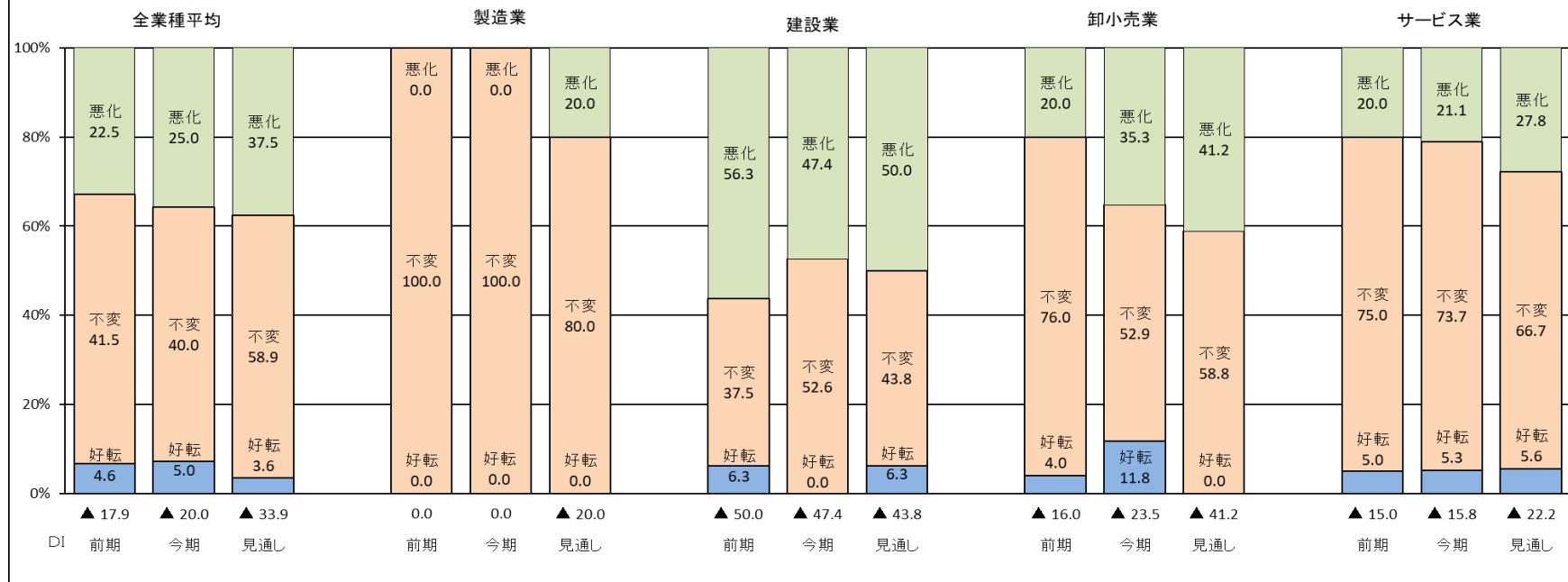
業種別業況DI



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・今期、全業種平均で▲20.0ポイントと前回調査と比べ2.1ポイント減少となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期▲6.0ポイント悪く、見通しでも▲19.7ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期6.8ポイント良いが、見通しでは▲8.0ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・名寄市の見通しが今期よりマイナス幅が拡大する要因としては、若手不足・人口減少・人件費の上昇・降雪量の少なさとの回答が多数あり。
- ・業種別の見通しでは、建設業は横ばいとなっていますが、製造業、卸小売業、サービス業では悪化の傾向となっております。

業種別業況回答割合

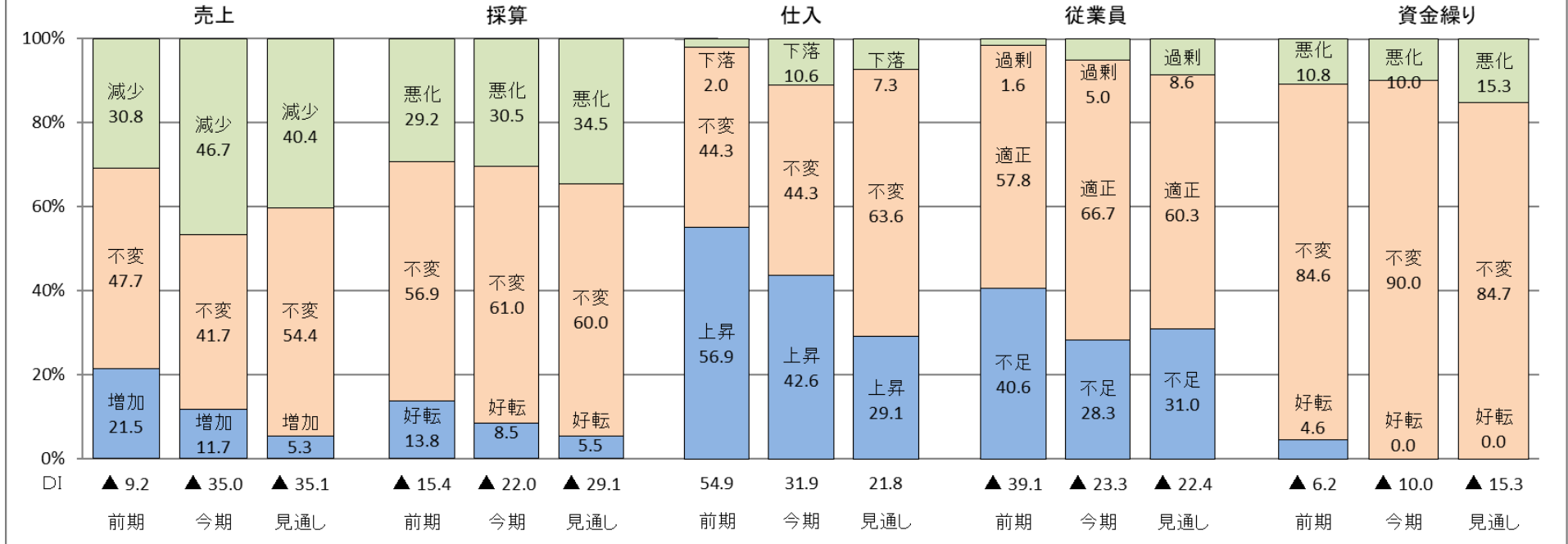


※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～** 今期は前期と同じく「不変」が100%となり、「悪化」「好転」回答がなくなった見通しでは「悪化」が20%増加し、好転が見込めない状況となっている。
- 建設業～** 今期は前期に比べ、「悪化」が8.9%と良くなったが、「好転」の回答がなくなった見通しでは「悪化」が半分を占めているが、「好転」が6.3%と増加になっている。
- 卸小売業～** 今期は前期に比べ、「悪化」「好転」共に増加しており、見通しでは「好転」の回答がなく、「悪化」が5.9%増加しており、厳しい状況となっている。
- サービス業～** 今期は前期に比べ、少々の変動はあるがほぼ横ばいとなっている。見通しでは「悪化」回答が6.7%増加して厳しい状況となっている。

全業種平均では、今期は前期より「悪化」2.5%増加。見通しでは「悪化」11.5%増加となっているが、「好転」回答が1.4%減少しているため、景気回復の兆しは未だに不透明である。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI 今期▲35.0ポイントと前期より25.8ポイント減少となっている。見通しでは▲0.1ポイントマイナス幅となっている。
 [減少の要因] ・消費増税後の売上減少 ・消費の減少

採算 DI 今期▲22.0ポイントと前期より6.6ポイント減少となっている。見通しでは▲7.1ポイントマイナス幅となっている。
 [悪化の要因] ・降雪量の少なさ

仕入 DI 今期31.9ポイントと前期より23ポイント減少。見通しでは▲10.1ポイントマイナス幅となっている。
 [下落の要因] ・原材料の高値水準 ・消費増税

従業員 DI 今期▲23.3ポイントと前期よりも15.8ポイントマイナス幅が減少となっている。見通しでは0.9ポイント増加となっている。
 [不足の要因] ・少子高齢化 ・希望者不足 ・定年退職者の発生

資金繰り DI 今期▲10.0ポイントと前期から▲3.8ポイント減少。見通しでは▲5.3ポイントマイナス幅となっているため厳しい状況。